

海外紹介 世界の鍼灸コミュニケーション(27)

台湾における鍼灸事情

楊 應吟

台湾 台北鍼灸学会
全日本鍼灸学会 海外会員

要 旨

過去、台湾の鍼灸術は「師徒伝承」の個別伝授法だったが、1955年に台北市鍼灸学会が政府機関の認可を獲得した後、研修会を介した体系的な習得法にかわった。20年のうちに鍼灸学を学習する者も増えて、一般民衆にも鍼灸に対する効果を認められ、徐々に鍼灸治療を受ける患者さんも増えてきた。

1975年やっと鍼灸療法が受け入れられるようになってきた矢先に、「新医師法」が実施され、今までの鍼灸師は無資格となり、数多くの鍼灸師は台湾から国外へ流出してしまった。

国外では資格試験の制度があるが、台湾には鍼灸に関する資格制度が無く「中医師」の試験に合格した者は、“漢方薬の処方も、鍼灸師の資格と開業を許される”と言う摩訶不思議な制度が出来てしまったのである。

中医師の試験に鍼灸の科目が加わったのは1989年になってからで、筆記試験だけで実技試験はない。だからこの間、中医病院の鍼灸治療はハリ専門の実技研修を受けたベテラン達が担当していて中医師ではない。

この様にこの道に精通しない者が指導的な役割を担っていることは、鍼灸界の発展はおろか障害となり、台湾における鍼灸に対する研究の遅れは、この不当な制度の為である。

過去30年間も、「鍼針灸の合法化」の抗議運動を起こしてきたが、衛生署と中医師公会の反対に逢い、いまだに混沌たる時代にいる。

日本に於いては、電子顕微鏡、コンピュータ等のハイテクを駆使して針灸に取り組んでいるのである。政府はいち早くこの事に目覚めて、早急に針灸の発展に切り替える政策こそが衛生署主管の急務だと思う。

いまや鍼灸術は国際的になり、WFASは毎年国を変えて学術大会を行っている。

もし先進国の日本に、世界各国から鍼灸の勉強が出来る環境をもつ国際的な鍼灸大学が出来れば、鍼灸を通して国際交流が出来、若き未来の医師たちに切れ掛かった親日の絆を挽回してもらえと思う。

キーワード：台北市鍼灸学会、師徒伝承、新医師法、中医師、衛生署

はじめに

現在台湾で衛生署の認可を受けている鍼灸学会は、台北市鍼灸学会の外に台湾鍼灸医学会（元台湾省鍼灸学会）中国鍼灸学会などがある。

この中でも特に「台北市鍼灸学会」(The Acupuncture-Moxibustion Society of Taipei)は歴史的にも一番長く、鍼灸師の養成、臨床実践の経験も多く、台湾の鍼灸界に大いに貢献してきた。

その証に、現在世界の各地で活躍している台湾から行った臨床鍼灸師の大部分は、ほとんどが台北市鍼灸学会の会員であると言っても過言ではない。

台北市鍼灸学会は1953年（民国42年）に準備をはじめ、1955年（民国44年）に政府機関（当初は台北市政府に登記）の認可を獲得した。20年経過した1975年（民国64年）頃には、鍼灸学を学修する者も増えて、一般民衆にも鍼灸に対する効果を認められ、徐々に鍼灸治療を受ける患者さんも増えてきた。

台湾における鍼灸術が「師徒伝承」（早期日本のハリ師も同様）であったが、学会創立後は臨床研修会の体制で会員の訓練が行なわれてきた。

過去の「師徒伝承」は個別伝授であるのに対し、研修会では10数名から20数名程度の少人数制度による、基礎から臨床までの、体系的な修得法に変わっていった。また、これに加えてテキストも逐次充実してきた。

しかし、1975年（民国64年）、台湾でやっと鍼灸療法が芽生えてきたこの時に、「新医師法」が施行された。今までの鍼灸師は無資格となり、その為に数多くの臨床鍼灸師は台湾を離れ国外に流出してしまった。

国外においては、資格試験の制度があるが、台湾にはこの制度がなく、「中医師」の試験に合格した者ならば、“漢方薬の処方のみならず鍼灸師の資格と開業を許される”という、摩訶不思議な制度が出来てしまった。

この様な事で、現在台湾でのハリ治療の施術は中医師の資格を持った者のみが開業している状況だ。

台湾の中医師

東洋医学の中医師というのは脈診で病状を診断し、その診断に基いて漢方薬を調合するのが主体であり、専門の生薬の研究と配合を学習してきた者なので、鍼灸学に於けるツボの配穴とは、全く分野の違う学問である。ところが、衛生署（日本の厚生省に相当）はこれを混同するという大きな間違いを犯してしまい、今日に至ったのだ。そして1989年（民国78年）になって、中医師の試験に初めて鍼灸の試験が加わった。しかし筆記試験だけで実技試験はない。

また中医学院に中医科も西洋医学の西医科もあるが、不思議なことに鍼灸科はない。ただ中医科に鍼灸学の科目があるが、これとて8学分（8単位）だけで、中医師の鍼灸に対する術は專業ではなく、付帯的な存在になっている。よって中医病院の鍼灸担当者は、中医師ではなく、前に述べたハリ専門の実技研修を受けたベテラン達が治療を受け持っている。現在はやや様子が変わってきており、中医師で実際にハリ治療をやっている先生もいるが、まだ実に少ない。事実、鍼灸という科目だけでも、その奥は実に深く、未だに解明できないところが多々あるが、台湾におけるハリに対する研究が遅れをとったのも、この不当な制度の為であると考えられる。

総合病院の鍼灸科

一方西洋医学の総合病院で鍼灸科がある病院もある。台北では古くからは栄民総合病院（退役軍人の病院）、市立和平病院、台北医科大学附属病院鍼灸科、台中に中国医薬学院附属病院、花蓮の慈濟大学附属総合病院に鍼灸科があるほかは、まだ鍼灸科のある病院はない。しかし中医病院には大きな病院でも小さな診療所にも当然ながら鍼灸科があり、目下台湾における中医師は4000名とも5000名ともいわれ、本当に鍼灸だけを專業にしている先生は数少ない。

世界鍼灸学会聯合会に参加

1994年に韓国で国際鍼灸WFASシンポジウムが開催された際に、台北市鍼灸学会は世界鍼灸学会連合会（World Federation of Acupuncture-

Moxibustion Societies: WFAS) に加入を申請し、1995年トルコでのWFASシンポジウムの時には「執行委員会」から認可され、1996年アメリカ・ニューヨークで開催された第4回世界鍼灸大会では、満場一致で台湾地区も世界鍼灸連合会の一員になる事ができた。

台北鍼灸学会は設立から今年(2005年)でちょうど50周年になる。去る12月10日に台北市の「救国団劍潭海外青年活動中心」で創立50周年の慶祝大会が開かれた。

・抗議運動

過去30年間も、台北市鍼灸学会は「鍼灸の合法化」の抗議運動をおこなってきたが、衛生署と中医師公会の反対にあい、過去に資格をもっていた鍼灸師も混沌たる時代にいる。顧みるに終戦当時、日本にマッカーサーが進駐した際に、「鍼灸は野蛮だ」といわれ、禁止された事があったが、医学界の鍼灸に関心のある方々の甚大な努力によって解禁された。

この事を思うと、この道に精通しない者が政権を執ることは、非常に危険な事だと思う。発展途上国のベトナムでさえ、「麻薬中毒患者の治療」「ハリ麻酔」等に鍼灸療法で大変好い結果を得ているとの事である。

ハイテクを駆使して鍼灸に取り組んでいる日本に於いては、電子顕微鏡、コンピュータを使って超微形態学的、形態計測的研究を進めている。

このように鍼灸が日進月歩で発展しているのに、台湾ではまだ鍼灸専門医師が少なく、その上、国民健康保険では鍼灸による治療の制限もあると聞いている。

この世界でも公認されている鍼灸の効果、治療は安全で(薬害のような害)かつ経済的な療法は奨励されるべきであって、これを阻止すべきではない。

このような状態にいち早く目覚めて、早急に鍼灸の発展に切り替える政策こそが、衛生署主管の急務だと思う。一番いいのは隣国の鍼灸を参考に、予防医学には最適な鍼灸学の発展に、政府の衛生関係者が真剣になって取り組むことである。

・民俗療法

過去、台湾でも私が幼稚園のころ(1932年、昭和5年)、隣の金庫屋さんの子供が、親から背中にキセルに詰めるきざみタバコのようなものを載せられ、煙が出た途端にその子がギャギャわめきだした事を覚えている。後に母に聞いたら「あれはお灸しているのだよ。」と教えられた。母の父は漢方医だったのでよく知っていたのでしよう。当時の台湾はまだ日本統治時代で、世界有数の伝染病根源地でもあった。第四代台湾総督、児玉源太郎の右腕となる民政長官、後藤新平は医学博士でもあり、着任するや、台湾の衛生環境と医療の大改善をおこなった。

さらに上下水道のインフラ整備も行われ、彼は内地から100名を超える医師を招き入れ、近代的衛生教育を徹底させたが、漢方薬、漢方医は禁じることなく、開業することができた。だから漢方薬店の前を通ると、お灸で艾のにおいと漢方薬を煎じているにおいがしたのである。

・瘴癘の地では戦死より病死

日清講和条約が調印されてからも、台湾では日本の支配に反対する清国軍数万人との戦闘が繰り返された。この戦闘での戦死者は164名、負傷者は515名であったが、戦病死が4,600余名、病院に収容された戦病者は27,000名もあった事からしても、いかにマラリア、コレラ、赤痢、チフス等の伝染病の多い荒地であったかがわかる。この瘴癘の地で台湾の住民がいかに生き抜いてきたかを、後藤新平は、環境の調査や全容を把握した上で、漢方医は禁じることなく、また阿片常習者も急に取り締まるのではなく、阿片を専売制にし、阿片患者を徐々に減少させたのだ。当初16万9千人もいた常習者も、1941年(昭和16年)には0.1%にまで激減し、終戦の年には皆無となった。鍼灸にはあまり関係は無いのだが、実際に体験した事は、やはり幼稚園だった頃、よくオデキが出来ると、普通は漢方薬屋さんから貰った膏薬で治る。ところが、なかなか治らない場合は、阿片の吸い滓ともいうタール状の膏を紙にぬり、オデキに貼ると2度程度ですっきり治ってしまった事が

あった。

また、まだ鍼灸の道に入っていない頃（1972年）“魚の目”で大変困った事があった。膏葉屋さんからお灸で治す方法を教わり大変感激した事もあった。

後藤新平の改革前の台湾では、漢方薬や鍼灸の他に薬用植物などの民俗療法が台湾の住民の健康に貢献してきた。その証拠に1895年日本への帰属が決まるや治安は悪化し、残留清国兵の掃討に、日本から来た兵隊は、戦死者、負傷者が700名足らずなのに、風土になじめず、戦病死、戦病者3万2000名も出してしまった。

・研究では日本が世界一

時は変わり、いまや日本は鍼灸の研究においては、ハイテクを使った世界でも新しい方法で行っており、この方面に掛けては世界一だと思う。

鍼灸はすでに国際的になってきた。WFASでは毎年国を変えて学術大会を行っている。

過去、台湾は日本と兄弟の如く外敵と戦ってきた。しかし日本は、田中角栄の親子や自己利益の為の政治家たちが、反日的な中国にはべこべこ頭を下げているのに、世界一親日の台湾に対する冷たい仕打ちに、我われ日本語族（日本語を話し、日本文の読み書きが出来る数少ない台湾人の事）もだんだん冷めて来た。まして過去、台湾でも反日的な教育を受けた若者達も親日になれる筈がない。

・おわりに

このような状態で切れ掛かった絆だが、台湾のみならず、各国から鍼灸を通して勉強に来られる学生を日本の鍼灸大学が受け入れてくれれば、本当に国際の交流が出来る事と思う。実際に日本の鍼灸の先生と花蓮の慈済大学附属病院鍼灸科を訪れた際、鄭主任のハリさばきに、中井先生が感心して主任さんに聞いた所、「学校だけでのハリの勉強では、足りないと思い、また日本へ行って学んだのです」との事であった。

そこで日本でも、鍼灸の勉強ができる環境、即ち、学生を受け入れる事の出来る国際課の鍼灸大学が出来れば（出来得れば英語か中国語で授業）

若き未来の医師達に親日の絆を繋いでもらう事が出来るのではないかと、願っている次第である。



写真：花蓮 慈済大学附属病院にて
右から、慈済大学病院初代院長夫人 杜さま、
中医針灸科主任 鄭先生
日本鍼灸学博士 中井さち子先生
筆者。

Acupuncture and Moxibustion in Taiwan

YANG Ying-Yin

Taiwan Taipei Society of Acupuncture and Moxibustion

The Japan Society of Acupuncture and Moxibustion (foreign)

Abstract

In the past, education of acupuncture/ moxibustion in Taiwan depended on the masters-disciples relation. The knowledge of acupuncture/ moxibustion was transmitted to disciples individually.

Since its establishment in 1955, The Taipei Society Acupuncture and Moxibustion improved educational program to more systematic one. In the following 20 years varieties of studies in this field were conducted, people also turned their eyes to these traditional remedies

Though acupuncture and moxibustion had begun to be accepted by people, the new medical law was enforced in 1975, which disqualified the acupuncturists for medical practice. As a result, many of the acupuncturists and moxibustionists left Taiwan for overseas. Unlike many other nations, Taiwan has no system for certification of acupuncturists/ moxibustionists. The traditional Chinese doctor in Taiwan, after passing the examination for Chinese Medicinal exam can practice the Chinese herbal medicine and the acupuncture / moxibustion. It seems an inconceivable system.

It is only after 1989 that the subjects on acupuncture/ moxibustion medicine were included in the exams for the traditional Chinese doctor in Taiwan. But it still doesn't include tests of practical skills. This is more of a hindrance than a contribution to acupuncture and moxibustion in Taiwan.

Though there has been the legalization movement for acupuncturists/ moxibustionists during the past 30 years, it met opposition from both of the health bureau and the traditional Chinese doctor trade union. The license system for acupuncturist is still left uncertain.

Now in Japan, the high tech device like electronic microscope, micro inductor and micro-electric are introduced in the studies of acupuncture/ moxibustion medicine. And in the field of scientific research of the acupuncture and moxibustion, Japanese seem to have more grant view than other country. The health government of Taiwan should turn their eyes to the reality and change its policies towards this effective medicine.

Now acupuncture and moxibustion medicine has become one of the international research topics. In recent years WFAS academic congresses are held every year in the different nations. Here I would like to suggest that in advanced country like Japan, a new university specializing in acupuncture/ moxibustion medicine should be established and it should accept and educate foreign student from overseas with international curriculum. Only the continuous and faithful exchange of the young scholars would recover the true friendship between Taiwan and Japan.

Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM). 2006; 56(2): 191-195.

Key words: The acupuncture-moxibustion society of Taipei, apostle tradition, New Doctor Low, The Oriental medical doctor, Department of Health